

- * 世のクリスマスはセールの最大のチャンスであるが、教会はイエス・キリストのことを知ってもらう最大のチャンスである。「アドヴェント」とは文字通りは「来る」という意味であるが、教会ではイエス・キリストが来られるのを待ち望む期間のことを言う。
- * 「イエス」とは「主は救い」という意味の、ユダヤ人としてはポピュラーな名前である。「キリスト」は苗字ではなく「救い主」の称号である。預言者イザヤは、イエスが生まれる700年以上も前に、いずれイスラエルだけでなく人類全体に救い主が与えられることを預言した。「**それゆえ、主みずから、あなたがたに一つのしるしを与えられる。見よ。処女がみごもっている。そして男の子を産み、その名を「インマヌエル」と名付ける。**」(イザヤ7:14)
- * 「**主権はその肩にあり、その名は不思議な預言者、力ある神、永遠の父、平和の君と呼ばれる。**」(イザヤ9:7) このみどり児は、神であり、永遠に神の国を治める方である、という。日本の神々とは違って、聖書の神は、この世よりも先に存在し、この世を造られた方。また、霊(目に見えないが生きて働いている存在)、全知、全能であり、聖、善、義、愛において完全な方。イエスはこれらの神の性質をすべて持っておられる、まさに「まことの神」であった。ただ、目に見える人間として来られ、神がどういう方かをはっきりと示されたのだ。「**御子は、見えない神のかたちであり、造られたすべてのものより先に生まれた方です。**」(コロサイ1:13)
- * イエスは私たち人間が持っているすべての肉体的、精神的機能を持っておられた。だからこそ、イエスは私たち人間のことがよく理解でき、私たちの身になって考え、感じることができたのだ。4つの福音書や使徒の働きを読めば、このことは明らかである。イエスは「まことの人」であったのだが、一つだけ人間と違ったところがあった。それは罪のない、罪を犯さない方であったことである。その目的は、まったく罪のない方が犠牲になり、十字架にかかって私たちが罪から救うためであった。喜びの訪れを心から待ち望みたい。